



## 小さなことの積み重ねとコミュニケーション、世代をつなぐ鍵

協働パターン

町内会と大学



### 概要

主体者名称	陣屋町内会	町会設立年	—
協働先	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科（三浦昌生研究室）		
所在地	埼玉県上尾市	町会加入世帯数	約 821
		加入率	66%
		町会運営メンバー	9人 平均 75歳
地域の状況	埼玉県上尾市の南東部に位置し、戸建住宅が多く、単身者や家族向けの集合住宅が点在する住宅地。防犯に対する住民の意識が高く、住民の多くが防犯ボランティア活動に登録している。夜間の街灯の暗さが住民の不安要素となっていた。		
協働の内容	町内会と大学が共同で、街灯の照度に関する住民アンケートを行い、照度計を用いて地区全体の街灯の照度を実測した。5年後、再度住民アンケートを行うとともに、街灯の照度実測と照明器具の経年劣化の調査を行った。		

### 協働のきっかけ

戸建の住宅街の住民から町内会役員に、夜間の街路が暗いという声が届いていたため、町内会として実態の把握を検討していたところ、芝浦工業大学の三浦昌生研究室が住快環プロジェクト（2001年度から2017年度まで54の自治会と協働）の一環として、地域課題解決に向けた活動を協働で行う自治会を公募していることを知り、応募しました。

### 回答者

陣屋町内会 会長  
うちやま しげよ  
内山 茂代 さん



## 取組内容

まず、住民が夜間の街路の照度についてどのように感じているのかを調査するとともに、照度計を使って夜間照度を実測し暗さを数値化・可視化しました。5年後に再び住民アンケートと実測を行い、前回の取組の検証と、照明器具の劣化による照度の変化を確認しました。

1回目(2007年)の住民アンケートでは、回答の約8割が夜間照度を「暗い」と感じていました。住民と学生のミーティングを半年の間に10回以上行い、町内会から約240人、学生のべ70人が参加して町内の1,646地点の照度を実測し、その結果を「住環境改善マップ」として可視化しました。

その後、住民と学生で改善計画を検討し、街灯の新設と修繕・清掃、各戸の門灯を点灯する「一戸一灯運動」の推進が決定しました。「一戸一灯運動」では、電気代の節約と負担軽減のため、防犯のため夜中点灯しておくという条件で、門灯のLED化費用を町内会から補助しました。また、実測結果に基づいて街灯の設置を行政に働き掛けた結果、6年間で51基が設置されました。

5年後の2012年に、夜間の明るさと門灯の点灯に関する意識などについて、再び住民アンケートを行いました。その結果、夜間の明るさを不満に思う住民は減少したものの、49%はまだ暗いと感じていることがわかりました。

その後、住民のべ25人、学生のべ13人が参加して、住民2人と学生1人がチームとなって町内全域の夜間の明るさと街灯の明るさを実測しました。あわせて、水銀灯の経年劣化が進んでいること、LED灯の増設による効果が大きいことも確認しました。

## 協働で工夫したポイント

学生がまとめた調査結果を、町内会は将来のために生かし、学生は日本建築学会において発表するというスタンスで取り組みました。実測の日時、場所等に関する学生の助言にはしっかり耳を傾けました。

また、町内会の役員・班長と学生だけでは町内全域を実測できないため、住民に参加を呼び掛けたところ、90人程が参加を申し出てくれました。実測に来てくれた学生には食事を提供し、感謝の気持ちを伝えました。

## ふりかえり(評価)

### (1) 事業の実施結果

#### 期待していた良い結果

根拠のある実測データをもとに街灯の必要性を行政に訴えることができ、街灯の増設やLED灯への交換が実現しました。また、「一戸一灯運動」の取組により、3年をかけて110世帯の門灯をLEDに交換することができました。

#### 予測していなかった良い結果

普段接点のない学生と打ち合わせや実測、親睦会を通して話すことができ、町内会のお祭りに招待するといった交流もできました。住民側でも、実測に参加したことがきっかけで町内会活動に関心を持つ人が出てきました。

### (2) 協働の一連の取組結果

事業準備段階	プログラム遂行	事業終了後
◎	◎	◎

#### 町内会

町内会だけではできない夜間照度の実態把握や、若い世代との交流など、良い機会をいただけて感謝しています。

#### 芝浦工業大学(三浦昌生研究室)

この協働活動においてアンケートや実測の主体は町内会であり、研究室は専門的立場からそれをサポートするのが特徴です。そのことを陣屋町内会の皆様に協働活動の開始前から繰り返しお伝えすることでご理解いただけるよう努力しました。住民の方々が照度計を使って自ら実測を行うことで自分の住む地域の夜間の安全性に対する意識が格段に向上したことが事後アンケートにより確認されています。

## 今後の展開

2回の調査を経て町内会活動への関心が高まり、自主防犯パトロールへの参加にも弾みがつきました。現在は、青色回転灯を付けた自動車でのパトロールや、11グループに分かれての土曜の夜の「徒歩パトロール」を実施しています。

同じグループの住民同士で話す機会が増え、世代間交流の場ともなっています。班長は1年交替で年4回パトロールを担当しますが、担当日以外でも顔を出したり、任期終了後も参加したりする住民もいます。また、パトロールの前後に町内会館で一息入れる時間が話し合いの場となり、町内会の運営・調整がより円滑になってきています。

## 活動者・参加者の声

#### 地域住民

昔と比べてとても明るくなったと思います。夜間の心配が薄らぎ、大変感謝しています。

#### 学生

この半年、陣屋町内会のみならず活動し、「町会を良くして行きたい」という気持ちがとても伝わって来ました。また、町会の行事にも参加させてもらい、今後、自分が住む町の町会に参加して活発な町会にしていきたいという気持ちになりました。ありがとうございました。

(青木 政幸さん)

自分が住んでいる町や学校がある町以外に、何度も通ったり、町の人と話し合ったりすることは初めての体験でした。陣屋町内会での日々を通して、一人暮らしを始める町で「町内会に入ってみよう」と思いました。半年間で得たものを自分が住む町でも生かしていきたいです。

(綿野 広樹さん)